

会計検査院 2018 年度決算検査報告

「材料試験炉(JMTR)で使用する燃料要素の製作」に関する報道について

各紙報道の概要

- 廃炉が決まった日本原子力研究開発機構大洗研究所の材料試験炉(JMTR)において運転見込みが立たない状況で燃料製造を続けていたことが、会計検査院の 2018 年度決算検査報告で明らかになった。
- 燃料は JMTR 固有の仕様で他に転用できず、約 10 億 9 千万円が無駄に支出されたと指摘した。
- 燃料製造指示は、製造担当部署だけの判断で行われていた。

事実関係

- 「運転再開時期の見通しが立つまでの間、燃料製造を保留すべきであった、保留していれば契約金額の一部が節減できた可能性がある」との会計検査院からの指摘に対しては真摯に受け止めて改善を図ったところである。
具体的には、燃料製造指示について、従来は契約内容に基づき担当部署の判断で手続きしていたものを、関係部署が確認の上、より上位者が判断する手続きに改善し処置が完了した。
- 燃料要素の発注当時（平成 24 年 9 月～）は JMTR を再稼働する予定であったため製造を進めていたものの、平成 28 年 9 月に廃止措置の方針が決定された結果として未使用となったもの。
- 「(燃料要素は)他の試験研究用等原子炉では使用することができない」との会計検査院からの指摘は、燃料要素が JMTR 固有の仕様になっており、そのままでは転用できないことを示している。
- 原子力機構では、指摘を受けた燃料要素について、許認可変更等を行った上で他研究炉において活用することや、ウラン等として売却することを検討している。

会計検査院からの指摘

https://www.jbaudit.go.jp/report/new/summary30/pdf/fy30_zumi_390.pdf

原子力機構ステートメント

会計検査院による平成 30 年度決算検査報告について（令和元年 11 月 8 日）

<https://www.jaea.go.jp/news/newsbox/2019/110801/>